

パンタナル通信

南北米福地開発協会

会報

2010年1月1日

76号

パンタナールの自然を保護し レダを観光の王国に！！



レダの支流に憩う鳥の群れ

一〇〇九年十二月飯野撮影

A portrait of a middle-aged man with grey hair and glasses, wearing a dark suit, white shirt, and red tie. The image is set against a plain, light-colored background. To the right of the portrait, there is a vertical column of Japanese text in a bold, black font. The text reads: '謹んで新年のお喜びを申し上げます。' (Mitsude oshio ni no yoroi o oshite oshite masu.) Below this, there is a larger block of text in a regular black font, which appears to be a speech or a statement. The text is as follows:

不動産バブル崩壊、
金融機関の破綻により
波乱が予想されるアメ
リカ。金融危機対応で
急増する、財政赤字。
地に落ちたアメリカの
復活はなるのか?なら

ないのか?この問題が世界はどう見る影響は?このような問題が心配され論議される、時勢です。

世界中が混乱すればするほど、私たちが希望の光にならなければと痛切に感じます。

社会構造であり経済システムだからです。この問題の解決は、人間本来の姿、そして世界の本來あるべき姿がどうあるべきか深刻に考えることなくして解決の道を見出すことができないと思います。この社会は個と全体との関係でなりたっています。個と全体の調和が崩れると混乱が生じます。全体を優先しない個人目的はないし個を保護しない全体目的もありません。今の社会は全体の利益を優先するのではなく、

個の利益を優先するところから造られた社会構造であり、経済システムです。この構造とシステムが今日の問題を引き起こしております。南北米福地開発協会は個と全体の調和と他の為に生きる人生を推薦して活動しております。そして自然と万物世界を汚染から保護する活動です。今年二〇一〇年もこの大きな夢を実現するため、前進そして前進です。

南北米福地開発協会

会

長
神山威

レダから新年の抱負
謹賀新年

南米パンタナール・レダの
地から新年のご挨拶を申し上
げます。

私共夫婦して貴重なメンバーと一緒に、源焦的聖地で歩めることを限りなく感謝しています。



皆様の厚いご支援のお陰で
レダも二〇〇九年で十年の節
目を終え、今年は第二次十年
開拓元年出発です。

今年も大いなる希望を胸に
皆様と共に継続・前進・発展
を遂げて参りましょう。

皆様とご家族の上にご多幸を
衷心よりお祈りしています。

二〇一〇年一月一日

飯野貞夫・絢子

国が観光に力を入れる方針ながら「パラグアイでこんなに素晴らしい大自然を見れるとは知らなかつた！」とパラグアイの政府ゲストが感動しています。知られざる秘境ということです。牧畜：自然放牧を中心とした牛の飼育が本格的に取り組み始めました。現在四百五十頭ですが、設備を充実させて、拡大させて行く予定です。収益事業としての道を作るプロジェクトです。更に「豚ランド」が開設され、十頭から四力月で四十頭になつて来ています。

でしよう。皆様と共に、その為の努力をして行きたいと思います。

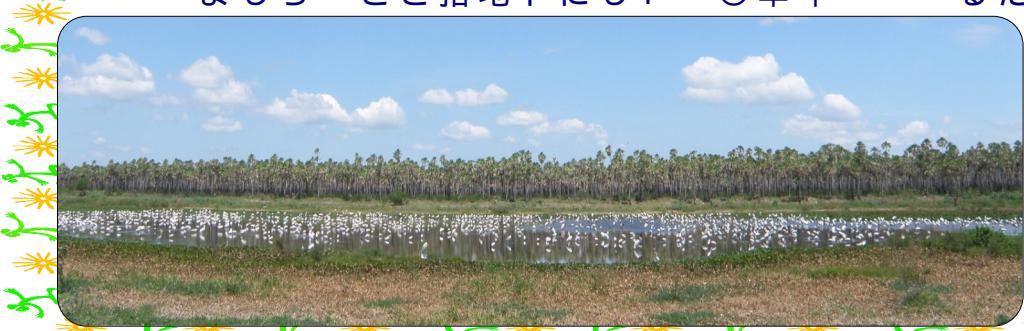
植樹活動：地球温暖化・砂漠化の対策の一環として、開拓初期から植樹活動を推進して来ましたが、昨年は、レダ近隣の村々だけでなく、青年ボランティア隊がエステ市で市長を先頭に中学高校五十校で五千本の二一ツムを植樹しました。この機運を盛り上げ、レダからパラグアイ中に火をつけ、南米全体にこの緑化プロジェクトを拡大して行けるよう取り組んで参ります。

エコツア－名勝地レダ：十一月初旬、鶴、鷺はじめ大鳥が千羽以上飛来する出来事がありましたが、それ以外にも昨年は、大アリクイ、鹿、猪、オオトカゲ、陸龜、ダチョウなど、次々と動物達が日陽園（レダ）に顔を見せていました。これら自然をより良く保護して行きたいと思います。更に大統領補佐官も感動した支流奥へのエコ街道が第三・第四の橋と共に開通、一層大草原の自然を楽しんで頂けるようになつて来て

奥地百垧（一km²×一km）ンタナールの恩恵を生かした土地で自然栽培（種だけ蒔いてで自然に任せる）が試みられています。四ヶ月の勝負この実験が成功すると、自然今まで使われていなかつた土地が生かせて、大いなる収穫が求められる人類の食糧問題解決への糸口が切り開かれるかもしれません。

奥地百垧（一km²×一km²）
ンタナールの恩恵を生かした
土地で自然栽培（種だけ蒔いて
けで自然に任せせる）が試みられ
ています。今まで使われていなかつた
土地が生かせて、大いなる
収穫が求められる人類の
食糧問題解決への糸口が切
開かれるかもしません。

(文責: 飯野貞夫)



鳥の大群飛来！

(十一月一日撮影)



何と千羽を超えるトウコ、シラサギ、紅へらさぎ、しげ、川ウなど、親子連れも多く、沢山の種類の大型の鳥たちが支流奥百ヘクタール農場の手前の池に大集合しています。十年間こんな沢山の大型鳥たちの群れは見たことがありません。正に壯觀の一語です。

支流の水がどんどん干上がり遂に歩けるようになつて、支流がせき止められた池に集結したのでしょう。



写真上：レダに上陸した中井さん（右）、古市（中央）さんとボートを運転をされた上山先生

中井、古市さんレダ着！

十一月一日、アスンシオンをミリタリー機で発つて、バイアネグラに降りた中井重幸、古市和也氏は、

上山先生がボートで出迎えをして、途中ティアナ、カトルセマジョ、エスペランサのインディヘナ村に寄りながら、レダに無事に午後四時元気に到着しました。

十一月三日、朝から各建物・施設を案内し、農場及び植林関係拠点等は、中田所長も同行され、それぞれの農場施設がどういう目的で、どのようにして進めて来たかを説明してもらいました。

二人とも大いに希望を持ったようです。彼らの責任分担に関しては、これからじっくり話し合つて決め行きたいと思っています。古市さん曰く「少ない人数でこんな広い範囲の開拓を良く進めて来たことがあることもあるでしおからお楽しみに。」

第一農場を農場公園へ

現在中田所長は、第一農場を本格的に整備整頓され、畑の中をゲストが歩き易いように再利用の材木を敷いた道を作られたり、種を蒔いても古くて芽が出ていなかつた花壇にもう一度種を蒔かれたり、西瓜やメロンのポット苗を作られたり、とき水の時に使うホースにシャワーへッドを利用して、植物に静かに雨に似た優しいとき水が出来るように工夫したり、ゲストをお迎えした時に喜んでもらえる公園のような楽しい農園にして行きたいと張り切っています。

皆様も次回御来園の時には新しい出会いがあることでしょう。



11月花壇が初めて作られ、再度種蒔きがされた。

第10回ピースライフセミナー (11月21-23日)



第十回セミナーの報告 (吉本邦男)

このたびのセミナーは初めて一泊三日のスケジュールで実施されました。参加された方は三十五名。今迄の一泊二日のスケジュールでは時間的に非常に制約がありました。が今回は講義内容はとても充実しました。高津先生も従来の講義に加えて二日目も担当して下さり裏山散策で拾つたどんぐりからポット苗を作る実演もあり、参加された方が大いに喜ばれました。

参加者の感想

『パンタナール、レダ開発の話や映像を見る度に一年前に奉仕隊に参加した時の感動が蘇り、また参加したいとの気持ちが湧きあがってきます。南北米福地協会の方々は植樹活動やインディヒナの村の教育支援など、一つの活動を取り上げてみても言葉と行動が一致している方々だなあと思います。』『森を作る話はとても参考になりました。コストがほとんどかからず手間もかからずドンケリと土だけで森が作れると思うとわくわくしました。』

レダ10周年記念プロジェクト 支援のお願い



担当の
ベニグノ夫妻

支援金送付は事務局の

口座か現金書留にてお願いします。

旧年中は会員の皆様には色々なご協力をありがとうございました。本年も事務局一同、より良き未来を築くためより一層。頑張りますのでよろしくご指導、ご鞭撻をよろしくお願いします。柴沼より

南北米福地開発協会 事務局
〒213-1000
神奈川県川崎市高津区
溝口二丁目十五
岩崎ビル四F
○四四一八一九一一八二一
○一七七六八〇四七一
郵便口座
代表 柴沼邦彦
会費納入
E-MAIL office@asd-nsa.jp
ホームページ <http://www.asd-nsa.jp>

南北米福地開発
協会会員の募集
南米、パラグアイパンタナール地域への植林活動を通じて生態系の維持と強化を促進し、その地域をモデルとし、世界に環境保護の大切さを訴えています。会員は月五〇〇円、毎月、パンタナール通信を送ります。また、各種のセミナー、エコツアー等の案内をいたします。